

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800013		
法人名	株式会社ピース		
事業所名	グループホームほりいけ		
所在地	福岡県飯塚市堀池268番地1		
自己評価作成日	平成27年11月7日	評価結果確定日	平成27年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の日常を大切に考え、お誕生日にはスタッフ手作りケーキを囲みみんなで祝いしたり、毎月お食事会と銘打って、お鍋・お好み焼き等食べ放題にし満足感を得られる様になっています。入居者のご家族からいただいた新米を個々におにぎりを握って食べたり、裏の畑で採集した芋の茎をテーブルを囲んでみんなで皮むきし、夕食の一品とし季節を感じていただくなど何気ない日常を豊かに笑顔で過ごしていただける様心掛けています。居間ではレク活動時間になると「今日は何するの?」と楽しみにされています。天気がいい日は玄関先でテーブルと椅子を出してお茶会をしたり、毎日穏やかに過ごしていただく様支援しています。ご本人、ご家族の望む生活を最優先にと考え、終末期の支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

若年性の方から百歳までの入居者が一つ屋根の下で暮らすグループホームほりいけは、自治会加入で行事のお誘いや散歩の折の声かけ、登下校時の子供たちの挨拶などの地域との交流が日常となり、職員たちのきめ細やかな気づきで、笑顔のある生活を支援している。今年度は老衰のように亡くなられた高齢の入居者と悪性腫瘍で余命1ヶ月と診断された若年の入居者の看取りは、生死を考える良い経験になっている。特に24時間体制の緊急連絡ができる緩和ケアチームとの連携で、本人や家族の意向に沿った看取りができたことが何よりであったと、職員は振り返りを行っている。職員間の人間関係が良好で、定例化した日時に開催される運営会議での意見交換もあり、理念の入居者たちの幸せを実感できる生活の支援が、今後も期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **すずらん/ほりいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した理念を玄関、休憩室に掲示し、常に目に触れるようにしている。小さな喜びと幸せを実感できるように目指している。優しい顔、優しい言葉を心掛けている。	「できることの維持」を謳った理念を機会ある毎に唱和している。だからこそできないところに寄り添う支援をしたいと、職員は入居者の「ありがとう」と笑顔を目指して、日々励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へも加入させていただき地域活動への参加を知らせていただいている。先日恒例の「獅子舞」では、ホーム前で入居者一人ひとり長生きできるようにと獅子二頭を噛んでいただいた。少しずつ地域との交流も密になってきている。	市の広報が届き、公民館行事のお知らせや声かけがある。近隣の保育園の卒園児の演奏会や可愛い園児たちの肩をたたきが恒例となり、入居者たちはとびきりの笑顔になっている。また、登下校時の子供たちの挨拶や散歩の折の声かけなどが、日常の風景になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根ざした施設運営を目的としているが、特別なことは実践されていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に近況報告、認知症の施設事例も報告し民生委員、市役所、地域老人会、家族でそれぞれの課題や情報を共有し、意見交換行い学びの場となっている。	定例化した日時に適切な委員の参加で開催している。行事や研修、避難訓練の報告、風邪やノロウイルスなど季節の注意や、看取りの報告について意見交換がなされ、整備した議事録はいつでも閲覧可能にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談委員の方に来ていただいております。相談委員と関わりご意見ご指導いただき情報交換しながら、ゆとりある介護に取り組んでいる。	高齢者支援課や保護課、地域包括支援センターと連携して入居者の相談や空き情報などの情報交換や協力関係を築いている。市のグループホーム協議会に加入し、研修会や交流会には代表が参加している。今後は職員の参加を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアについては、ミーティング等で職員には周知徹底している。離園傾向の方に対する、穏やかな声かけ、会話を心掛け、車いすにて危険がある方には目配り、気配りを職員全員で対応している。居室での転倒、転落にはセンサーマットを活用している。	夕方になると「帰る」と訴える入居者には、統一した声かけや会話をしている。時には、少し歩いてもらい後ろからついて歩き、タイミングをみて声かけしている。センサーマットの使用や最低限のベッド柵、畳、手摺にクッション材を巻いたりして転倒防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、ミーティング時及び日頃より職員同士でも意識を高めており注意を払うようにしている。他施設の事例等を通して職員で話し合い防止に努め、その人らしく生活して頂けるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自力支援事業や成年後見制度のパンフレットは常に玄関に掲示しており、いつでも気軽に相談できる体制をとり、活用できるようにしている。	家族の申し立てで成年後見制度を利用中の入居者がいる。月に1度後見人である弁護士が来所しており、家族の面会もある。	今後も多様な家族の状況が想定されることから日常生活自立支援事業や成年後見制度の職員研修をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、ご本人様の意思、希望をきちんと聞いており、ご家族にも本人が言っていたことや考え方、生き方や家族の思いをお聞きし十分に納得していただける様努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時等にご意見、ご要望を聞いており、入居者には常日頃より会話の中で、ご要望を聞きミーティング時に申し送っている。早急な対応が必要な場合は現場判断とし事後報告対応となる。	毎月発行の「ほりいけ通信」は写真を多く掲載し、日頃の暮らしぶりを報告している。家族の訪問時や年末の餅つき大会を活用して、家族と意見交換している。新規入居の家族から、おやつを持って行って良いかと相談され、ホームで預かりながら提供している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にミーティング、申し送り時、業務中に職員からの意見や提案を聞いている。早急な対応や改善できる点についてはその場で決定している。	ミーティングや申し送り時には常に、入居者に対する対応を検討し、質問やうまくいった時の対応を共有している。職員から転倒防止のためにセンサーマットの導入や入浴の順番を熱い湯が好きな入居者からにすることが提案され、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は介護の難しさ、大変さをしっかり理解されており、数回の食事会を開催してくだっている。又本人が希望した研修には全て参加させている。本年度ケアマネを受験する職員は全十日に及ぶ研修を出勤扱いで受講させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当事業所では性別、年齢、経験等に基準はなく、定年制もなくしており、幅広い年齢層でカバーしながら働いている。職員の間でも思いやりの気持ちを大切にしている。	採用基準は特に設けていないが、高齢者に対する優しさを第一に考慮し、介護技術は働きながら少しずつ習得してもらう方針である。今年度は2名の新人が採用され、各人の経験に応じて1対1の新人研修を実施している。外部研修や資格取得を奨励し、研修費用を負担したり研修参加は出勤扱いにしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の方は、人生の先輩であるとの考えを全職員が共有し、一方的な支援にならないよう、寄り添い側で支えさせていただいている。	市の人権研修に代表が参加し、伝達講習を行っている。管理者は理念を実践するために、最も大切な尊厳ある入居者への対応を日頃の接遇で心がけるように指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JTでの育成がメインとなっているが、毎年1～2人の職員に認知症実践者研修に参加していただいている。また外部より薬剤師の方を講師にお招きして2カ月に1回薬について勉強会を実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の連絡協議会に参加させて頂き、他施設の方々と意見交換をしサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が、ホームでの生活に慣れるまで、職員が声をかけ、寄り添い、顔を覚えていただき、安心して相談できるような信頼関係を築けるように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の必要としているサービスを理解し、ご家族の介護に対する希望、要望など、不安に思っていること、困っていること等を、気軽に相談して頂けるような人間関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護度、認知度の違う入居者に対してその入居者にあった支援方法を、ご提案しながら、家族と話し合い、家族の希望、要望に添えるように可能な限り対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は、人生の先輩であるとの考えを全職員が共有し、一方的な支援にならないよう、寄り添い側で支えさせていただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支える為、職員とご家族の協力体制が築けるように心がけています。面会に来られたときには近況報告させていただいています。三か月に一回ほりいけ通信を送り日々の状態や生活ぶりをお伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの知人、友人が訪問したり昔からの行きつけの美容室に行くなど要望に応じている。かかりつけ医も継続しており支援に努めている。又来訪しやすいホームづくりを心がけている。	散髪に見える家族もあり、家族とカラオケを楽しむ入居者もいる。年賀状作りをお手伝いして馴染みの関係継続の支援に努めている。美容室へ行きたいなどの要望は、家族が同行できない場合は職員が同行している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士との関わりの機会をもてるように体操やレクリエーションに一人でも多く参加していただける様に全員に声かけをし、皆で話しをしたり、思い出話しをしたりしています。食事の席の配置にも工夫しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族から、季節に応じた手書きの絵をいただき玄関に飾らせていただいています。差し入れを持って「みなさんの顔を見にきました」などと足を運んでくださり、これまでと同様の関係を継続させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意向、要望に添うように努力しています。意図的に言葉掛けをしていき、会話の中から思いをくみ取る様に努めています。また、行動・しぐさ・行動からご本人の意図をくみ取る様に努めています。	毎年、入居者の基本情報の見直しが行われ変化を確認している。「化粧品を買いに行きたい」「りんごを買いいたい」等の個別の希望は、職員が相談しながら支援している。言葉で表現できない入居者には表情や仕草から思いを推し量り、散歩の途中でパン屋さんに誘ったりしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、かなり細かくお話を傾聴し、ご本人、ご家族より情報を得る様努めている。申し送りやミーティング時に話し合いをして、スタッフ全員が理解し介護に活かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎食の食事、排泄、バイタルチェック、心身状態を把握し、日々の変化がないかを把握し、情報の共有をし、本人の希望を理解し添えるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点、気づき等をその都度話し合い家族からの希望、要望を聞き今後の介護計画に検討を重ねできる限り反映させている。	担当会議で課題を話し合い、介護計画を作成している。毎月の計画実施表で実践できたかを把握し、モニタリングにつなげている。外出したいがトイレが心配な入居者に、近場で時間のかからない場所に外出したり、時にはホームの前に椅子を出して歌うなど、現状に沿った介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、気づきを把握し経過記録に記入して、申し送り時やミーティングでの話し合い、連絡帳を活用して情報を共有できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の方からの相談や状況に応じ、買い物、散髪、受診への付き添いなど行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員の方々の協力の基に地域のなかで安全な生活が出来るように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及びご家族の希望される病院の受診を支援している。入居者個人の受診記録や情報はすぐわかるように、健康管理の共有している。	入居者毎の医療機関受診に職員が同行し、診療報告書で情報を共有している。早めの対処であわてることのないよう日頃の観察を行い、健康管理に努めたり、訪問薬剤師による薬の職員研修を継続している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば主治医へ報告し指示を仰ぎ支援している。入居者一人ひとりの受診状況や結果を記録し、申し送りで報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入、退院時は必ず職員が付き添い、ご家族と一緒に医師の説明や、これからの情報や治療方針を受け、入居者とご家族が安心できるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けては、住み慣れた場所ですごすご本人・ご家族の意思を第一優先に考えお話し合いをして、支援する方向で取り組んでいます。実際終末期の入居者を病院の緩和ケア在宅医療チームと連携したり、98歳の高齢の方も主治医と連携して支援させていただいた。	今年度は老衰のように亡くなられた高齢の入居者と悪性腫瘍で余命1ヶ月と診断された若年の方の2名の看取りを経験し、生死を考える良い経験になっている。特に24時間体制の緊急連絡ができる緩和ケアチームとの連携で看取りを支援できたことや、本人や家族の意向に沿えたことが何よりであったと、職員は振り返りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員、一人ひとりが入居者の状態を把握し、急変した際の対応方法を、ミーティングや申し送り時に適切な対応ができるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施しており、災害の際に対応できるようにいる。避難の仕方なども、きちんとできるように訓練しており、連絡網も掲示している。	夜間想定で年に2回、避難訓練を実施している。夜勤者がどのように動くべきかを想定して真剣に取り組み、職員たちは消防署員からのもっと声を出してなどの注意を心がけている。AEDの使い方や救急蘇生法の講習を受講している。	緊急連絡網を活用した訓練を実施することで、より実践力を高めるように期待します。また、運営推進会議で地域の方の訓練参加を呼びかけられてははいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して丁寧な声かけができるように心掛けており、入浴、排泄、更衣時には十分に配慮を行い、入居者のプライバシーを害さないようにしている。	入居者に日頃何と呼ばれていたか、ニックネームを気に入ってもらえるかなど家族や本人に確認して呼び方を決めている。職員は入居者の人格を尊重した対応を心がけ、入居者同士のトラブルを避けるように入居者の間に入り、プライバシーが確保されるように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位でをなく、入居者本位であることを常にミーティングや申し送りで話し合っており、入居者の希望を自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる一日の生活の流れは大まかに決まっているが、入居者の体調や、リズムに合わせ、食事の時間、レクリエーション内容決定、睡眠等を支援するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方に来てもらい、カットをしていただいている。希望お応じて入居者いきつけの美容室へつれていっている。化粧水や身だしなみのお買い物のお手伝いをして、その場にお応じて支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には、手作りケーキでお祝いをして定期的なイベントではお食事を開き、焼き肉、お好み焼き、お鍋、そうめん流し等入居者の希望添った食事を楽しんでいただいている。ミキサー食の方も見た目でも食事を楽しんでいただけるよう一食材づつかけ視力低下の方にも食事前に説明している。	100歳の入居者が、ミキサー食を時間をかけてゆっくり自分で食べるのが、いつもの風景になっている。周囲の誰もが好意的なまなざしで見守り、時折職員が食べこぼしや皿を整えるなど支援している。各入居者に応じた量や盛り付けで、全員が自分のペースで完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養バランスが摂れるよう工夫している。水分量は定期的に水分補給の時間を設け実施している。摂取の少ない入居者には、好みの食べ物、飲み物等を提供し摂取していただけるように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声かけ、誘導を行い口腔内清潔保持に努めている。義歯の方はお預かりし洗浄剤で洗浄し、朝のモーニングケア時に装着していただいている。必要に応じて歯科受診している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は全員、パンツ、紙パンツ、パットを個々に合わせて使用している。排泄の訴えがない方間隔が遠い方、短い方、失禁される方の排泄チェックを行うことでパターンを把握し、定期的に声かけ誘導を行い支援している。夜間も紙オムツ使用者のパット交換、ポータブルトイレ等入居者に合わせた支援をしている。	おむつ使用者はなく、各入居者の排泄パターンに合わせた誘導や見守りで、日中はトイレでの排泄を、夜間は状態に合わせてポータブルトイレの使用も支援している。排泄の自立の支援から、尊厳を大切にすると理念の実践も伺える。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、食物繊維を多く含んだ食材等多く取り入れ水分補給を徹底している。毎日の健康チェック、排便チェックも行い、便秘時には、腹部マッサージ、主治医処方された便秘薬で、排便コントロールしながら管理対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調の優れない方は、清拭を実施し清潔保持に努めている。入浴剤を使用したり、個人に合わせて湯船の温度を変えたり、ゆっくり浸かってもらうなど、ゆったりした時間を過ごしてもらうように支援している。	週3回の入浴支援を基本に、午前中から支援している。一人ひとりの好みに合わせて、温度を調節したり、ユニット毎に大きさの違う浴槽を用意して楽しんでいる。拒否のある方には、時間をあけてお誘いする等の工夫で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムは把握している。日中はレクリエーションへの参加等、活動的に過ごしていただき、心身の状況や生活習慣の状態に応じて、日中、臥床していただく等、臨機応変に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し、飲み忘れがないように注意を払っている。薬の変更等があった場合は、その都度その旨を連絡帳に記載し、毎日の申し送りで、情報の共有に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者での何気ない会話や、体操、レクリエーション等活動的に過ごしていただいている。家事が得意な方には、洗濯物をたたみや居室の掃除等その方にあった役割が出来るように支援している。天気の良い日には屋外の空気を感じてもらう気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、近くの神社へひとりでも多く参加できるようにお誘いしている。できる限り、入居者の希望される外出や買い物ができるように支援している。	車椅子で散歩に出掛けるようにお誘いしたり、個別の買い物希望がある時には日常的に出かけている。ホームの近くでお花見をしたり、外出を嫌がる入居者には、ホームの前にテーブルを置き、カフェ気分を味わうことで気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、自己管理が出来ない方も多く、トラブル回避の為、お金は施設側で管理させて頂き、本人が所持することは無いが、買い物に行ってお菓子を買ったり、希望に応じてお金を使う支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状も毎年ご本人が、知人、家族宛に書かれている。施設に届いた手紙、年賀状等は本人に直接渡している。電話も必要に応じ、本人がお話し出来るように、電話をかけたりにして支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに関して、入居者が不快に思わない空間は出来ているが、季節感がないところがないところが見直し点です。季節の花を飾る等、入居者が居心地よく過ごせるように改善を心掛けます。	ユニット間の仕切りを取ると明るく広い共有スペースになり、食事やレクリエーションが楽しめる。居間や廊下の天窓からは、やさしい光が入り、騒音は無い。テレビの周りに大きなソファが設置され、昼食後は気のあった入居者同士がおしゃべりしたり、テレビを見たりしてゆっくりと寛ぐ姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士一緒に座って頂いたり、独りになりたい時、皆さんと一緒に居ながらも、独りで座れる場所も確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や本人が使い慣れた身支度品を、本人希望の位置、使いやすい位置に配置して入居前のよりよい生活に近づけるように支援している。	クローゼットは荷物が整理整頓され、入居者の状態に合わせて、床に畳を敷いたり手すりをつけたりして、転倒を防止している。壁に職員の手作りの色紙が飾られ、自宅から持ち込んだタンスやイス、仏壇、身の回り品に囲まれて、落ち着いて過ごせるように配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間排泄時の安全対策としてポータブルトイレ、ナースコール、センサーマットを活用して転落、転倒防止に努めている。		